

賢徳寺跡・笠間兵衛家次館跡

県営ほ場整備事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

1991

石川県立埋蔵文化財センター

賢徳寺跡・笠間兵衛家次館跡

県営ほ場整備事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

石川県立埋蔵文化財センター

例　　言

- 1 本書は県営は場整備事業笠間地区に係る石川県松任市賢徳寺跡・笠間兵衛家次館跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は石川県農林水産部耕地整備課との協議に基づき、同課より依頼を受けた石川県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地調査は平成元年9月16日から同年10月30日にかけて実施し、福島正実（石川県立埋蔵文化財センター主事）が担当した。
- 4 調査費用は県耕地整備課が負担したほか、文化庁補助金の交付を受けた。
- 5 遺物整理（洗浄、記名・分類・接合、復元、実測、トレース）は既石川県埋蔵文化財保存協会に委託して実施した。
- 6 本書の執筆は、遺物について富田和気夫（石川県立埋蔵文化財センター）が、その他を福島が行った。なお、挿図、図版の指示は以下の通りである。
 - (1) 方位は公共座標系による。
 - (2) 遺物図版の縮尺は不同である。
 - (3) 遺構記号を使用する場合は以下の通りとした。
SB：掘立柱建物 SD：溝 SE：井戸 SI：竪穴 SX：その他の遺構
- 7 本発掘調査で出土した埋蔵文化財および記録資料は石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

目　　次

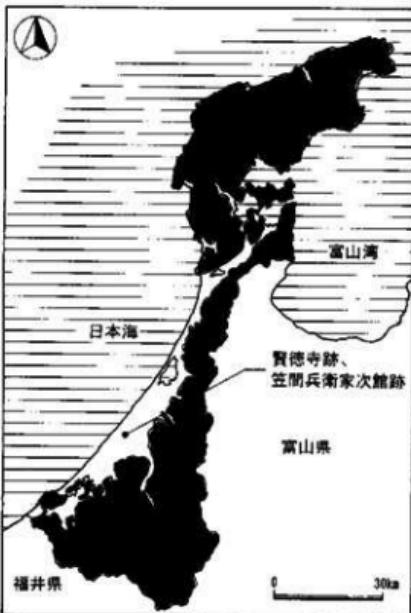
I 位置と環境	1
II 調査の経緯と経過	1
III 調査の概要	2

I 位置と環境

賢徳寺跡・笠間兵衛家次館跡は石川県松任市笠間町に所在する。松任市は金沢市の西に隣接し、県内最大の河川である手取川が形成した手取川扇状地の扇尖部以北に位置し、県内有数の水田地帯である一方、近年は工場団地、住宅団地の造成等急速に都市化が進行している地域でもある。遺跡の所在する笠間町は、昭和45年の町村合併による市制施行以前は石川郡笠間村を中心であった。また、近世においては見徳寺村の名称（寛文10年村御印）を用いた時期も見られる。さらに、古代の石川郡笠間郷（和名類聚抄）、中世の西笠間保に比定されている地域である。

本遺跡の位置する松任市西部には、暴れ川で知られ、幾度もその流れを変えてきた手取川の流路が各地に埋没している。笠間町周辺では大慶寺用水や山島用水（近代七ヶ用水の一部）が近世の手取川支流の一つとされている。したがって、中世以降急速に開発が進んだとされる当地域では治水が大きな問題であり、原始古代を含め遺跡が密集する同市東北部とは遺跡の分布密度や時代に顕著な差異が見られる。このような悪条件のなかで、今回の調査の際に奈良時代に遡る遺物が出土したことは注目される。

賢徳寺跡・笠間兵衛家次館跡については伝承により遺跡の位置が比定されたものであり、直接の史料は見あたらない。『加賀史稿』、『笠間郷土史』でも関連する地名（通称）を列挙しているが、現笠間町集落を包括するように点在しており、正確な比定は容易ではない。また、現状では堀、土塁等の露出遺構は確認されてはいない。



第1図 賢徳寺跡、笠間兵衛家次館跡位置図

II 調査の経緯と経過

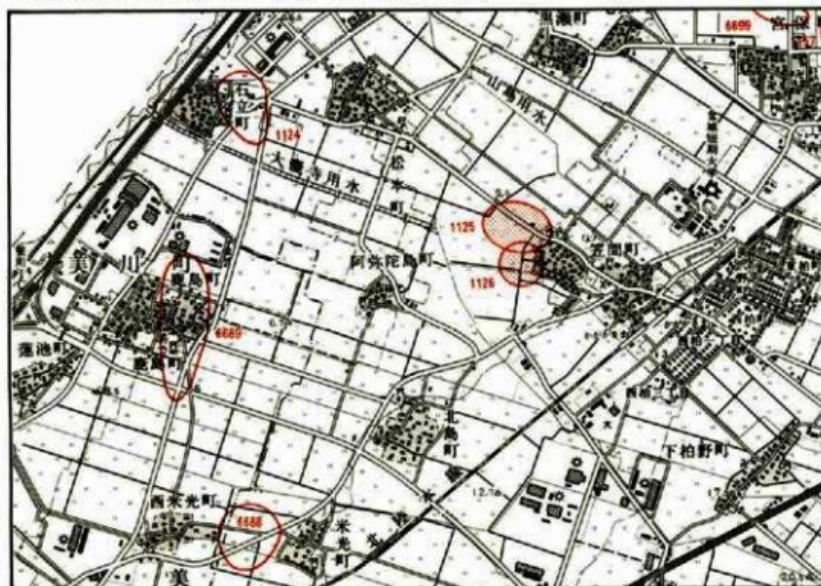
石川県内でも有数の米作地域である松任市一帯では、昭和50年代末頃から県営は場整備事業が積極的に実施されており、同市笠間町でも同事業笠間地区として事業が具体化した。本遺跡群が所在する集落西側一帯も平成元年度施工区域に採択されることとなり、県農林水産部耕地整備課からの依頼に基づき、昭和63年10月7日から10月11日にかけて試掘を実施した。調査の結果、施工予定地に埋蔵文化財包蔵地が所在することを確認し、工事主体者である耕地整備課、石川県松

任土地改良事務所とその取り扱いについて協議を行い、排水路については事前の発掘調査、その他の工事については盛土保存を図る方向で調整がなされた。排水路予定地の発掘調査（現地調査）は、同課より依頼を受けた当センターが、平成元年9月16日から同年10月30日にかけて760m²を対象に実施した。また、出土遺物の整理、記録資料の整理を平成2年度までに実施した。

III 調査の概要

1 調査区の名称、グリッドの設定

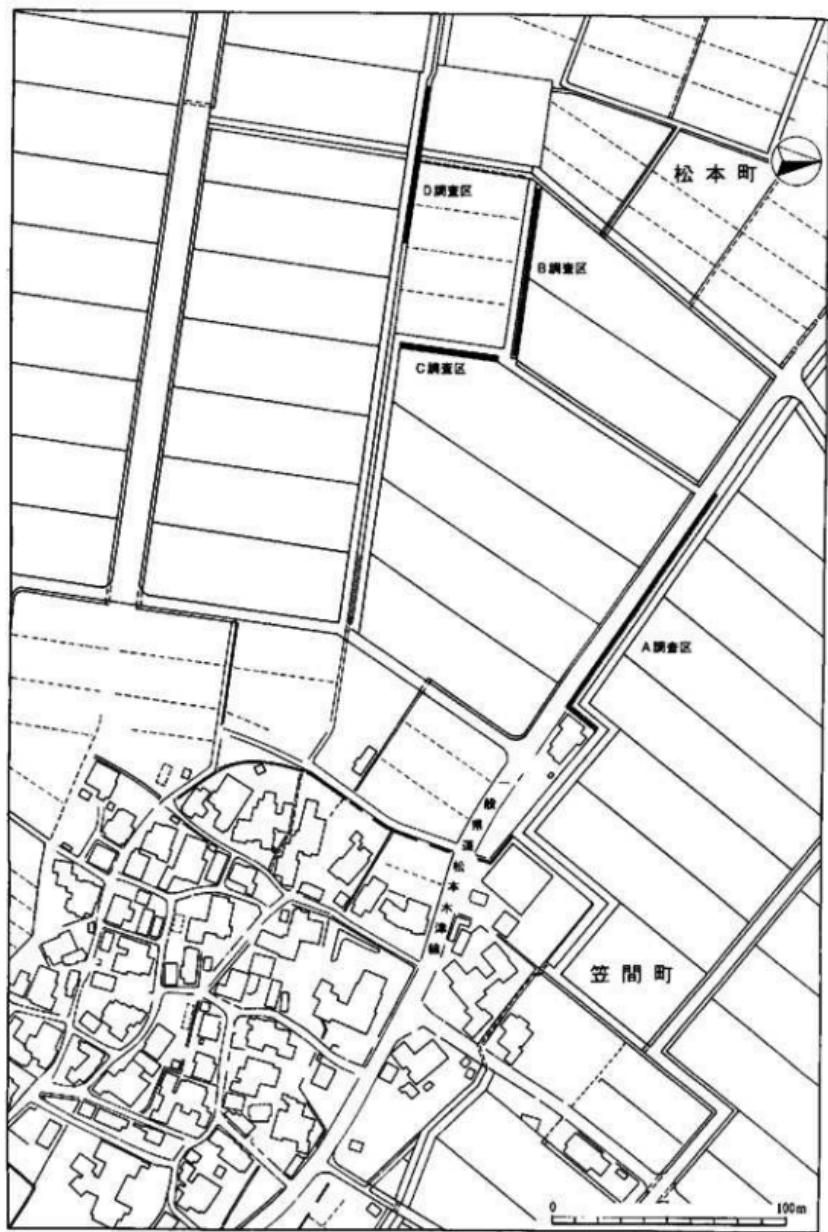
調査区域は排水路敷について掘削工事幅を勘案し幅2mとすることとし、排水路別に調査区名を付し、AからDの4調査区に区分した。また、各調査区の基軸は排水路中心線とし、調査区域が狭長なために、任意に設けた起点から10m単位で区分するグリッドを設定した。



第2図 周辺遺跡分布図 [1/25,000]

県番号	名 称	所在地(通称)	種別	時 代	備 考
1124	狩野瀬岐館跡(石立城)	松任市石立町(石ノ木)	館跡	室町	市指定史跡
1125	賢徳寺跡	松任市笠間町(ケントクジ)	寺院跡	不詳	
1126	笠間兵衛家次郎跡	松任市笠間町(タチ)	館跡	室町	
1157	赤松次郎宮保本陣跡	松任市笠間町(オタケ)	館跡	室町	
6688	米光万福寺遺跡	松任市米光町、美川町西米光町	包含地	平安～室町	1985年一部発掘調査
6689	鹿島町遺跡	美川町鹿島町	包含地	中世	
6699	宮保遺跡	松任市宮保町	包含地	秀生	1986年一部発掘調査

石川県遺跡地図を一部補訂



第3図 各調査位置図（県営ほ場整備事業実施後の新区画）[1/2,500]

2 遺跡の立地、遺構の概要

遺構面または地山面の標高は9.2~8.8mを測り、北方へ緩く傾斜する。B、C調査区において中世の堀跡である可能性のある溝等が検出された。現状ではこれらの遺構を賢徳寺跡等に直結させることには慎重にならざるをえないが、集落遺跡での出土頻度の少ない遺物も一定量認められることからみて、調査区周辺に中世の集落遺跡以外の遺構も所在しているものと推定される。

A調査区 平行する現水路によって東側は擾乱を受けている。調査区南西端寄りで近世以降と推定される水路跡1条を検出した（図版1上参照）。調査区の地山面は浅く、すべて疊、粗砂からなっている。遺物包含層は確認されなかったが、覆土中から須恵器、陶磁器片が少量出土した。

B調査区 ほぼ東西方向で延長72mの調査区域である。C調査区寄りのB-0~15にかけては地山面が疊及び粗砂層となり、小規模な溝（SD-B2）が検出されたのみであったが、B-15以西は粘土から細砂へと漸移的に変化する良好な地山面を呈し、溝、土坑等が広範囲に検出された。SD-B3は幅10m前後、深さ0.8m、北東~南西方向に延伸すると推定される大規模な溝である。底面はほぼ平坦であるが、中央付近には深さ10cm程度の不整形な掘り込みがみられ、両岸には人頭大的河原石が護岸状に出土した。極めて限られた区域の調査所見ではあるが、SD-C1同様、中世の堀の可能性を否定できない。

C調査区 ほぼ南北方向で延長42mの調査区域である。調査区中央部を境に南部に遺構が分布するのに対し、北部では地山面が疊層となり、遺構は皆無であった。遺物はSD-C1から土師器片、陶磁器片が出土した以外は、包含層を含め若干の土器細片が出土するにとどまった。

SD-C1は幅5~5.5m、深さ0.8m~0.9m、北西~南東方向に延伸するしっかりとした溝である。底面は平坦であり、底部近くの法面には底浚えをうががわせる段状の掘り込みが認められる。逆梯形を呈する断面の形状や、覆土の堆積状況からみて灌漑水路とは考えにくく、断定はできないものの、SD-B3と同様の掘の一部とする方が合理的である。

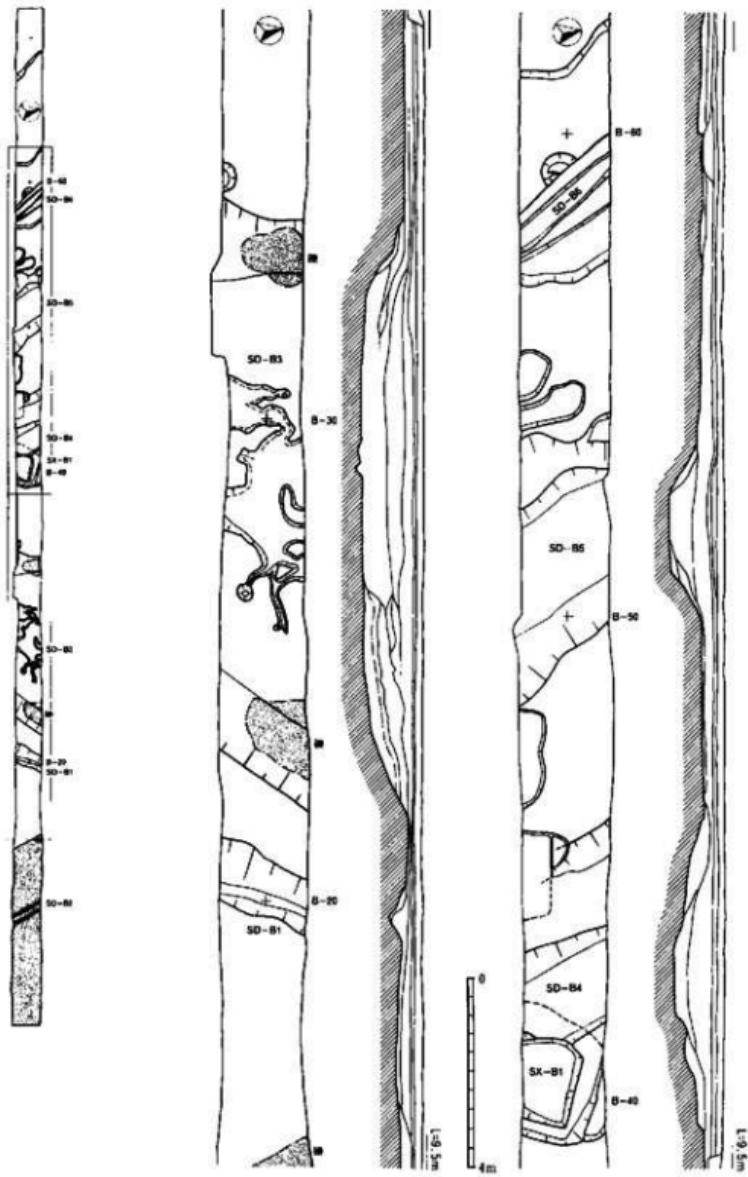
D調査区 ほぼ東西方向で延長70mの調査区で、B調査区とは50mの距離を隔てて平行する。D-0~27にかけて溝3条、不定形な掘り込みを1箇所（SX-B1）検出した。SX-B1は深さ約30cm、底面は平坦で、少量の須恵器片が出土した。また、耕土、床土下の灰褐色粘質土層からも少量の須恵器片や中世陶器片が出土した。遺構が分布する区域は主に粘砂上で地山面が形成されているが、D-20以西は疊層で形成されており、起伏はほとんど見られない。

3 出土遺物

今回の調査では中世の陶磁器を中心に、石製品や貨幣、古代の須恵器や灰釉、土師器等からなる遺物箱2箱分の遺物が出土した。各調査区の概要是以下のとおりである。

A調査区では実測遺物はないが、調査区東端付近から瀬戸茶入れ小壺を始めとする数点の陶磁器小片、鉄釘等、中央部付近から8世紀後半~9世紀前半の須恵器有台杯、無台杯の小片が出土している。

B調査区からは全体の約半数の遺物が出土した。遺物の時期は、11世紀（10）、12世紀末から13世紀前半（SK-B1）、13世紀末から14世紀前半（SD-B4）、14世紀末から15世紀前半（SD-B3、SD-B5）、19世紀（SD-B6、SX-B1）の5時期が確認できる。このうちS



第4図 B調査区全体図(1/400)、同調査区縦構図(1/120)



第5図 C, D調査区全体図 (1/400)、同調査区追権図 (1/120)

D-B 3からは石鍋が出土しており、天目碗をはじめとする茶道具類と共に、遺跡の性格を反映する遺物として注目されよう。

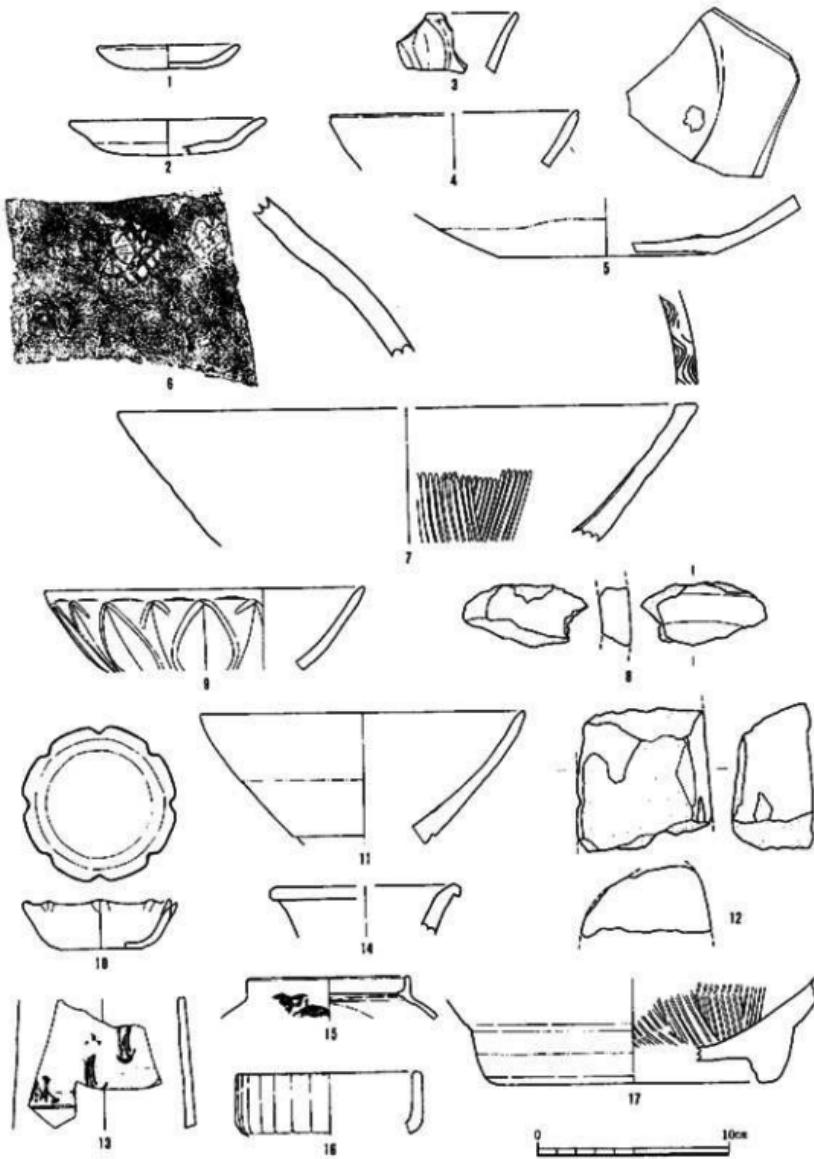
C調査区ではS D-C 1より12世紀末から13世紀前半および15世紀の遺物が出土している。

D調査区では9世紀前半の須恵器がS X-D 1や包含層中から出土し、加賀焼片が包含層中から出土した。

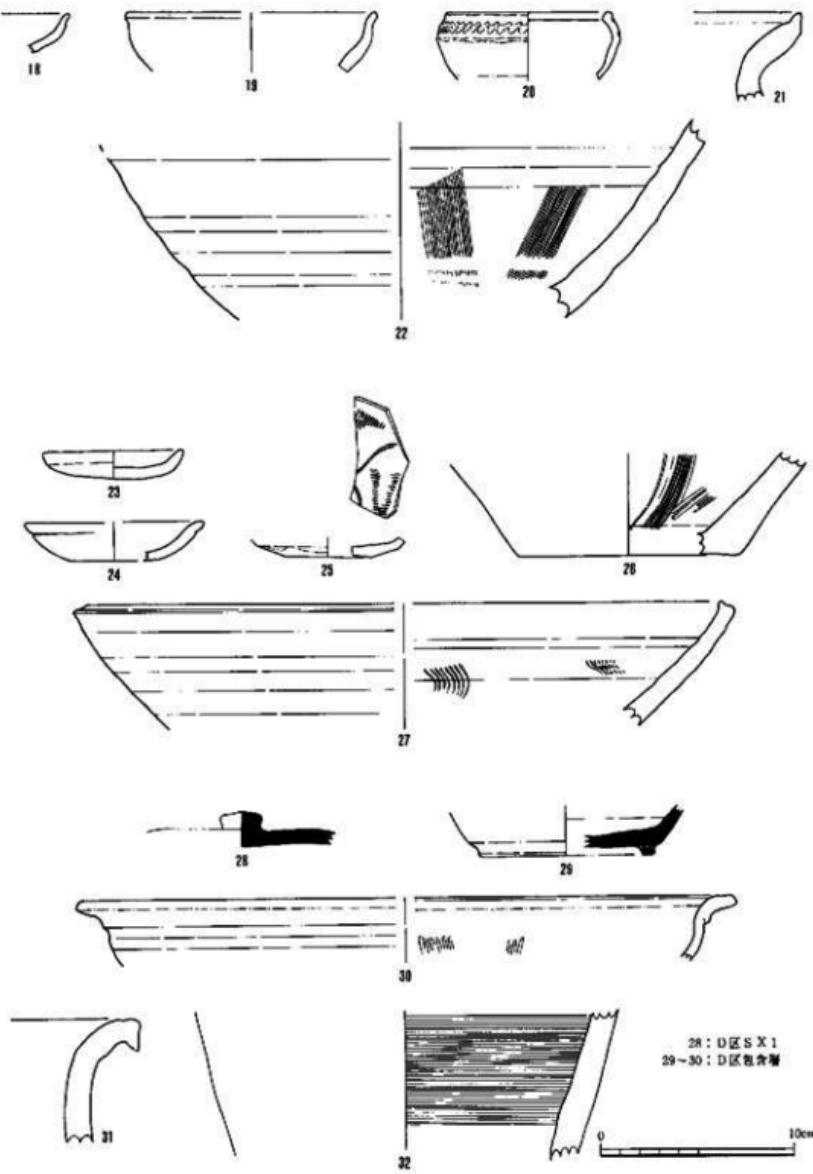
以上をまとめると、本遺跡の存続時期は①8世紀後半～9世紀前半、②11世紀、③12世紀末～13世紀前半、④13世紀末～14世紀前半、⑤14世紀末から15世紀前半、⑥19世紀の6期からなるものと把握できる。このうち遺物量が比較的多いのが③と⑤の時期であり、当遺跡の最盛期を反映するものと理解して差し支えなかろう。また、少數はあるものの、8世紀後半～9世紀前半の須恵器の出土は、手取川扇状地扇端部という開発困難地域であった当地周辺での、開発の端緒を示す資料として貴重であろう。

第1表 掘載遺物觀察表

番号	種別	器形	部位	法量 (cm)	色調	胎土	備考	遺構等	実測番号
1	土器器	小豆		口径 7.2、器高 1.7	内(外)黄褐	精良		SB-83	29
2	土器器	豆		口径10.1～器底 1.8	内(外)淡黄	良			30
3	青磁		口縁部		素地)灰、白(釉)オリーブ黄	緻密	縫通弁文、楕葉文系		11
4	象鼻火鉢	平柄	口縁部	口径13	素地)灰白、白(釉)オリーブ黄	緻密	細かい、買入、和むら		10
5	銀戸火鉢	折紙鉢	底部	底径11	素地)灰白、白(釉)にぶい黄色	緻密			8
6	加賀焼	盤	体部上半		内)灰褐色、外)灰褐色		外間に押印		9
7	須恵器	桶	口縁部	口径30	内)灰褐色		破断面に漆補修痕		26
8	石器		体部		内)灰、外)黒褐色		磨石製、表面黑色化		石1
9	青磁	碗	口縁部	口径17	素地)灰、白(釉)オリーブ黄	緻密	外間に縫通弁文	SB-84	5
10	灰釉	花入子	底部～口縁部	口径 8、底径 4、 深さ2.5	内)灰白	緻密	底部み切り		6
11	銀戸火鉢	平柄	体部～口縁部	口径17	素地)乳白、白(釉)灰オリーブ	緻密	買入、和むらあり	SB-85	7
12	雨露裏堅石				黒褐色		花崗岩自然石		石3
13	青磁九谷	茶器	体部		素地)乳白、白(釉)白	緻密	軋擦付筋の捺付	SB-86	12
14	如意鏡	小鏡	口縁部		断)灰、内外)灰灰褐色	緻密		SK-81	4
15	土器	口縁部		口径 8	素地)灰白	緻密		SK-81	3
16	白磁	小鉢	体部～口縁部	口径10	素地)白、白(釉)白	緻密			1
17	肥前陶器	桶	底部	底径13	内)灰褐色	良	捲足脚付		2
18	土器器	小豆	口縁部		淡黄褐色	緻密		BK	16
19	銀戸天目	碗	口縁部	口径13	素地)灰白、白(釉)白				17
20	青白磁	小壺	体部	口径 9	素地)乳白、白(釉)明明白	緻密	口縁部欠け取り		13
21	如意鏡	鏡	口縁部		内)灰褐色、外)灰オリーブ				14
22	須恵器	桶	体部下半		内)灰、外)灰白				15
23	土器器	小豆		口径 7.3、器高 1.4	内)灰白			SB-C1	24
24	土器器	小豆		口径 9.2、器高 2	内)黄褐色				27
25	青磁	豆		直径 4.5	素地)灰白、白(釉)オリーブ黄		内面に織維文、同安窯系		25
26	如意鏡	桶	底部	底径11	内)灰				28
27	須恵器	桶	口縁部	口径33	内)灰白				18
28	須恵器	杯			内)明青灰	小松	内面に一文字ヘタ記号	SK-01	20
29	須恵器	有台杯	底部	直径 9	内)灰白				21
30	須恵器	桶	口縁部	口径33	内)灰褐色			D区	23
31	如意鏡	小形鏡	口縁部		内)灰		口縁上面に枕輪	包含層	22
32	須恵器	瓶	体部		内)灰白		内面カキ留		19
33	貨幣						尾寧元寶		



第6図 B調査区出土遺物実測図(1) [1/3]



第7図 B調査区出土遺物実測図(2)、C、D調査区间 (1/3)



A調査区全景（南東端付近より撮影）



A調査区南東端近景（県道より撮影）

図版2



B調査区全景（東端（B-0付近）より撮影）



B調査区全景（西端（B-80付近）より撮影）



SD-B 3 (東 (B-20付近) より撮影)



SD-B 3 西岸 (南 (B-35付近) より撮影)



SX-B1 (東 (B-35付近) より撮影)



SX-B1 (東 (B-35付近) より撮影)



SD-B 6 (北東 (B-60付近) より撮影)



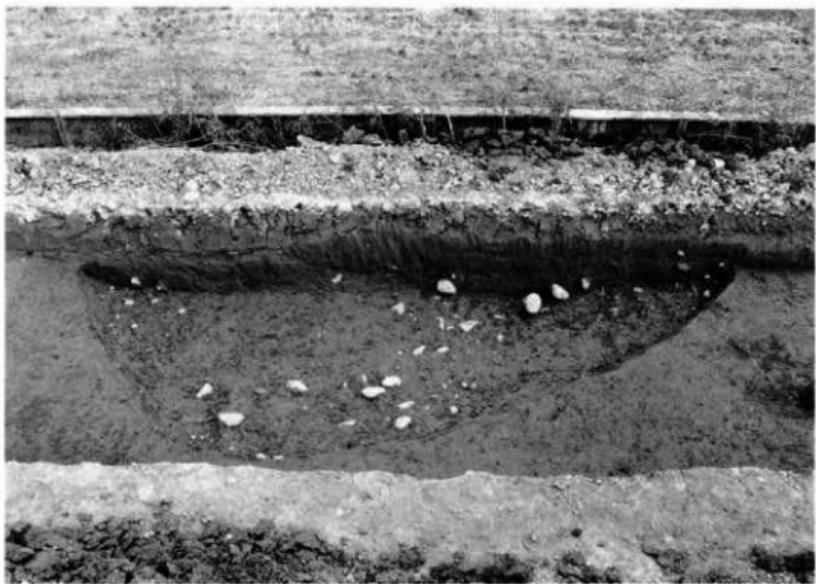
SD-B 6、B調査区西端部 (南東 (B-55付近) より撮影)



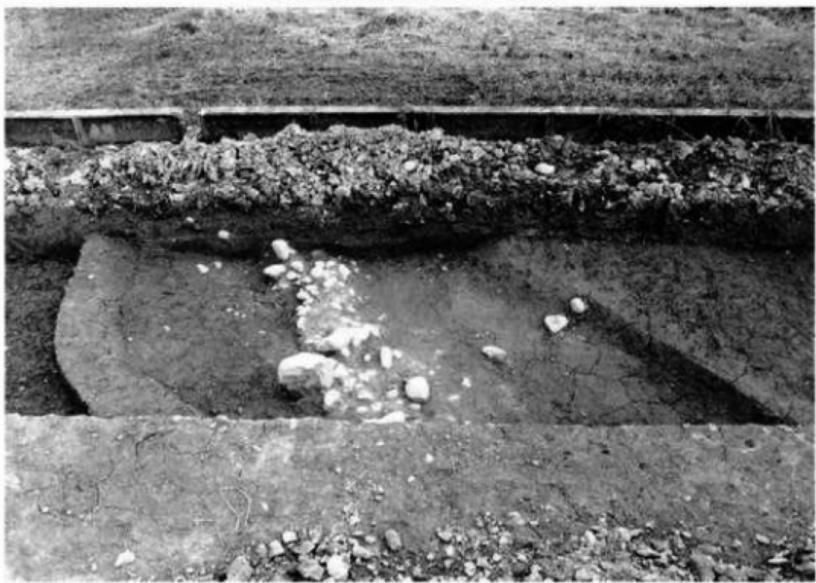
C調査区全景（南端（C-50付近）より撮影）



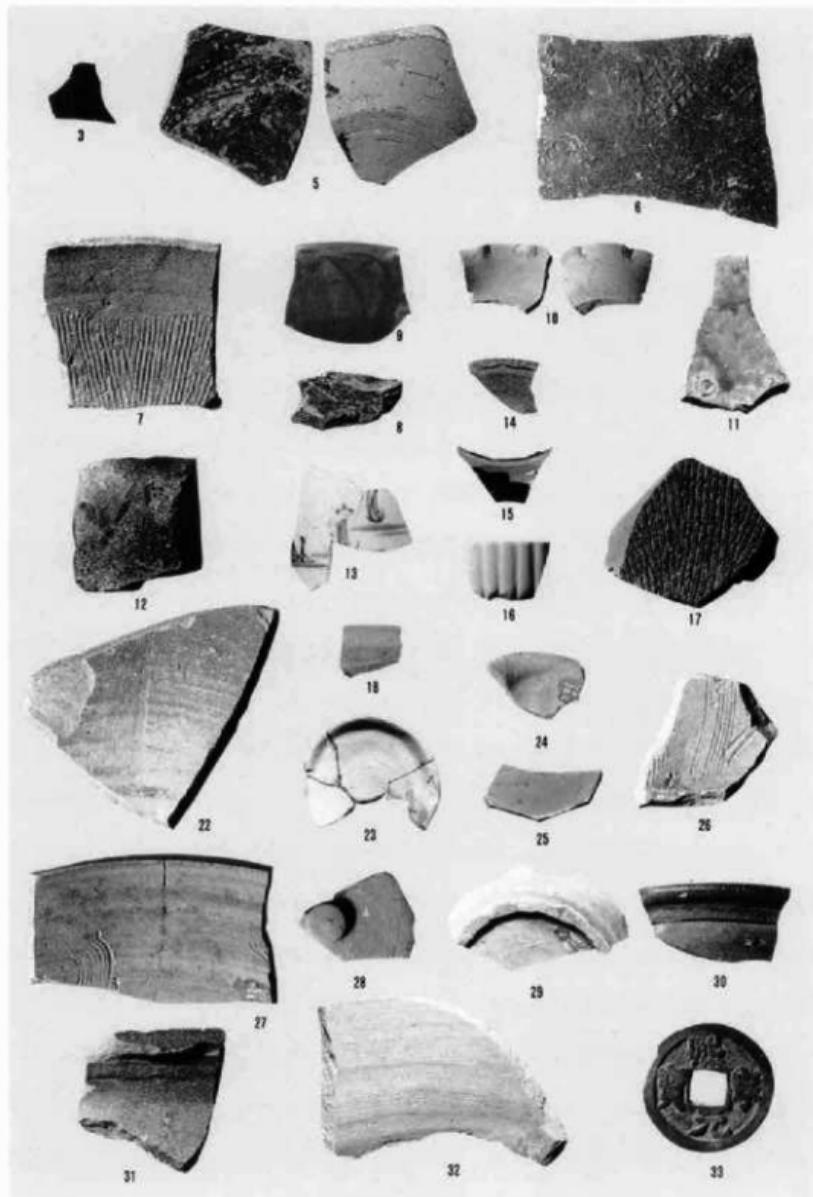
SD-C1（北西（B-35付近）より撮影）



D調査区全景（東端（D-0付近）より撮影）



D調査区全景（西端（D-70付近）より撮影）



各調査区出土遺物

賢徳寺跡・笠間兵衛家次館跡

景営ほ楊修備事業に係る

埋蔵文化財発掘調査報告書

平成3年3月20日 印刷

平成3年3月30日 発行

編集・発行 石川県立埋蔵文化財センター

石川県金沢市米泉4丁目133番地

〒921 電話（0762）43-7692番代

印 刷 北國書籍印刷株式会社

©石川県立埋蔵文化財センター 1991